



OLCグループ CSRレポート

2015

ダイジェスト 2015年9月

このレポートについて

「OLCグループ CSRレポート2015 ダイジェスト」は、OLCグループのCSR（企業の社会的責任）のエッセンスを、ステークホルダーの皆さまにご報告するものです。

本レポートでは、OLCグループCSR方針にある5つの「大事にしたいこと」に沿って、個々の活動をご報告しています。通読していただければ、OLCグループのCSRの全体像がつかめるように、記載内容を整理しました。また、特集では「東京ディズニーリゾートを支える『現場力』」と題して、テーマパークを訪れるゲストの皆さまの体験価値を技術面から支える「現場力」について、ご紹介いたします。

編集にあたっては、コンパクトかつ平易にまとめ、より多くの方々にお読みいただけるよう努めました。詳しい活動内容に興味をお持ちの方は、ウェブサイト上の「CSR情報」をご参照ください。

■ 報告範囲

主に、OLCグループ全体の取り組みについて報告しています。株式会社オリエンタルランド単体やグループ会社の取り組みなどを報告している箇所では、その旨を記述しています。見出しに「東京ディズニーリゾートの」「東京ディズニーリゾートに関連した」などと記載し野線で囲んだパートは、株式会社オリエンタルランドがディズニー・エンタプライゼズ・インクのライセンスを受けて東京ディズニーリゾートを経営・運営する会社として実行・管理する取り組みを含みます。

■ 報告期間

主に、2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の取り組みを報告していますが、継続的な取り組みや特徴的な取り組みなどについては、この期間前後の活動についても記述していることがあります。

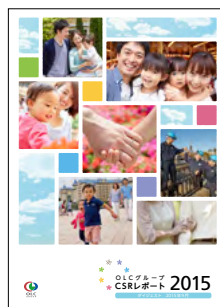
報告対象の組織・施設の範囲

報告対象の組織・施設の範囲	表記方法
OLCグループ全体の取り組み	OLCグループまたは当社グループ
株式会社オリエンタルランド単体の取り組み	株式会社オリエンタルランド
東京ディズニーリゾート®の取り組み 東京ディズニーランド® 東京ディズニーシー® ディズニーアンバサダーホテル® 東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ® 東京ディズニーランド®ホテルイクスピアリ® ディズニーリゾートライン 舞浜アンフィシアター	東京ディズニーリゾート
東京ディズニーランドと東京ディズニーシーの取り組み	テーマパーク
東京ディズニーランド、東京ディズニーシー個別の取り組み	東京ディズニーランドまたは東京ディズニーシー

■ OLCグループのCSR報告ツール

PDFファイル

OLCグループ CSRレポート2015 ダイジェスト



PDFファイルの形式で、OLCグループの2014年度のCSRのエッセンスを報告しています。

ウェブサイト

OLCグループCSR情報



<http://www.olc.co.jp/csr/>

オリエンタルランド CSR 検索

OLCグループのCSRを網羅的に報告しつつ、TOPICS欄を中心に最新情報を掲載しています。

- * OLCグループは、ディズニー・エンタプライゼズ・インクとライセンス契約を結び、東京ディズニーランド、東京ディズニーシー、ディズニーホテル、ディズニーリゾートラインを経営・運営しています。
- * 見出しに「東京ディズニーリゾートの」「東京ディズニーリゾートに関連した」などと記載し野線で囲んだパートは、株式会社オリエンタルランドがディズニー・エンタプライゼズ・インクのライセンスを受けて東京ディズニーリゾートを経営・運営する会社として実行・管理する取り組みを含みます。

Disney scenes © Disney Enterprises, Inc.

*所属・担当は2015年9月現在のものです。年月日の記載のないデータは、2014年度のものであります。

*本レポートは、OLCグループのCSRをまとめたものです。The Walt Disney CompanyのCSRについては、下記をご参照ください。
<http://thewaltdisneycompany.com/citizenship>

OLCグループのCSR

企業使命 自由でみずみずしい発想を原動力に
すばらしい夢と感動、人としての喜び、そして、やすらぎを提供します

OLCグループ CSR方針 OLCグループのCSRは、心豊かな社会、夢あふれる未来を目指して、
5つの「大事にしたいこと」に取り組んでいきます

かけがえのない 地球環境への思いやり

かけがえのない地球環境を
次の世代につないでいくために
環境への配慮を事業活動の前提として
環境課題に真摯な姿勢で
取り組んでいきます

GO! P.23

社会からの信頼に つながる誠実さ

健全な事業活動とマネジメント、
社会・地域との共生や
開かれたコミュニケーションなど、
企業として誠実であり続けることで
社会からの信頼を築いていきます

GO! P.9

**未来をひらく
子どもたちの笑顔**
子どもたちの笑顔から広がる家族や地域の絆
ひいては心豊かな社会のために
企業市民として、子どもたちを育み、支える
社会貢献活動に取り組んでいきます

GO! P.20

**新たな感動を創造する
活力あふれる人財**
新たな感動を創造するために、
一人ひとりが社会に視野を広げ、
ポテンシャルを最大限に発揮できるよう
支援します

GO! P.14

お客さまと 社会にひろがるハピネス

お客さまの社会的視点・ニーズを意識した事業活動により
お客さま、そして社会にさらなるハピネスを提供していきます

GO! P.17

目次

本レポートでは、OLCグループCSR方針にある5つの「大事にしたいこと」に沿って、
個々の活動をご報告しています。

OLCグループのCSR P.1

トップメッセージ P.3

特集 P.4

東京ディズニーリゾートを
支える「現場力」

5つの「大事にしたいこと」への取り組み

✳ 社会からの信頼につながる誠実さ P.9

✳ 新たな感動を創造する活力あふれる人財 P.14

✳ お客さまと社会にひろがるハピネス P.17

✳ 未来をひらく子どもたちの笑顔 P.20

✳ かけがえのない地球環境への思いやり P.23

OLCグループのCSR

株式会社オリエンタルランドが社会に提供し続けてきたのは、ほかのどの場所でも体験できない「ハピネス（幸福感）」です。テーマパークからテーマリゾートへの展開、そしてそのほかの事業を加え、OLCグループの事業は拡大してきましたが、「ハピネスの提供」を起点に、「夢、感動、喜び、やすらぎを提供し、心の活力を創造すること」が社会に向けた提供価値であるということは変わりありません。

当社グループは、「自由でみずみずしい発想を原動力にすばらしい夢と感動、人としての喜び、そして、やすらぎを提供します」という企業使命のもと、夢、感動、喜び、やすらぎを提供し続けることによって、「心豊かな社会、夢あふれる未来」の実現に寄与したいと考えています。そのために5つの「大事にしたいこと」に取り組んでいくこと、それが私たちのCSR（企業の社会的責任）です。



CSRの推進体制と中期計画

株式会社オリエンタルランドは、CSRを主管する組織として「社会活動推進部」を置いています。

また「OLCグループCSR方針」に基づく2016年度までの活動計画に沿って、CSRを進めています。今中期においては、テーマパーク事業におけるCSRの推進、従業員向けのCSR理解促進ツールの発行、環境マネジメントのさらなる推進などが盛り込まれています。

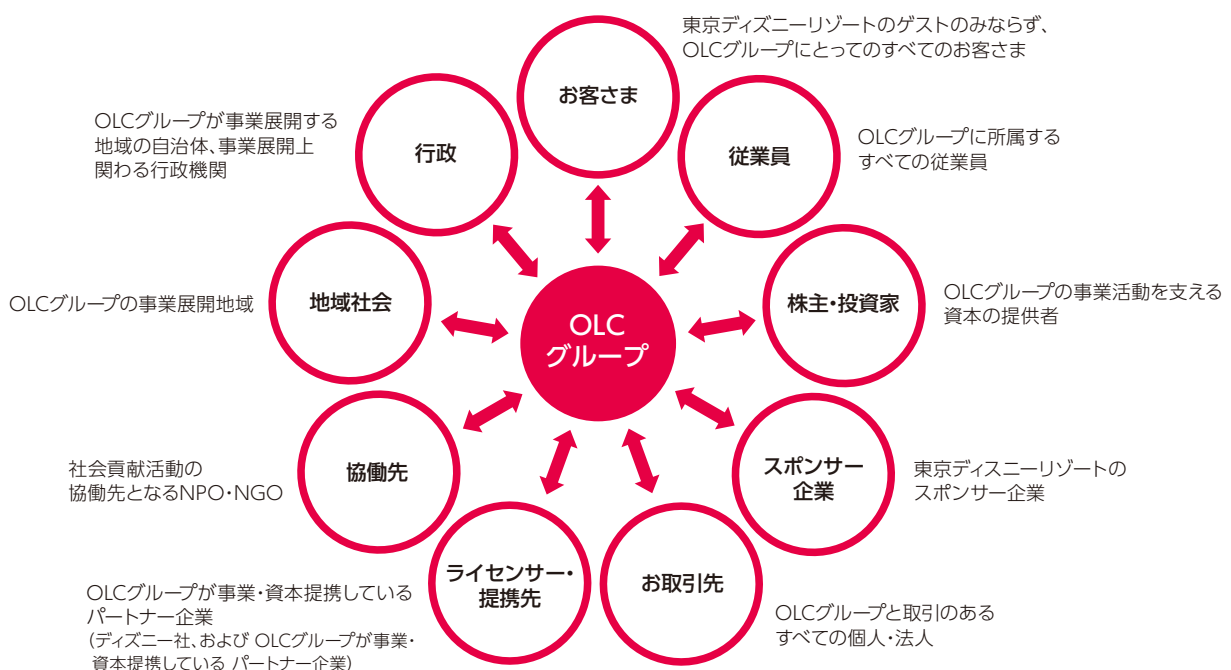
さらに、ISO26000に照らして、課題や今後の方向性を検討するなど、CSR中期計画に反映させています。

ステークホルダー・エンゲージメント

当社グループは、お客さま、従業員、株主・投資家、スポンサー企業、お取引先、ライセンサー・提携先、協働先、地域社会、行政の皆さまとの直接的な対話を重視して、日々の事業活動を推進しています。

またCSR視点で潜在的な課題を把握し、広く社会のニーズに対応することが重要だと考えています。そのため、CSRの専門家など有識者にさまざまな視点からご意見をいただき、活動やレポーティングに反映するステークホルダー調査を毎年実施しています。

OLCグループのステークホルダー



※ 本レポートでは、東京ディズニーリゾートのお客さまを「ゲスト」、OLCグループのすべてのお客さまを「お客さま」と記載しています

TOP MESSAGE

50年先、100年先も 変わらないハピネスを 届けるために

代表取締役社長(兼)COO 上西 京一郎



Q 2014年度はどのような1年でしたか。

2014年度は、東京ディズニーリゾート30周年の翌年でありながら、新規コンテンツやスペシャルイベントが好評を博し、2つのテーマパークの年間入園者数が過去最高となりました。あらためて、支持して下さったステークホルダーの皆さまに感謝するとともに、もう一度原点に立ち返り、より一層のゲスト満足向上を目指し、東京ディズニーリゾートを進化させていきたいと感じています。

Q CSRにおいてはどのような取り組みがありましたか？

OLCグループでは、「OLCグループお取引先行動指針」のもと、幅広く社会的責任に配慮した取引を行うべく、2014年10月、お取引先のCSR取り組み状況を確認する「自主調査リスト」を導入しました。これからも、サプライチェーン全体で社会的責任を果たせるよう、「自主調査リスト」の対象範囲を拡大し、取り組みを強化してまいります。

環境活動としては、テーマパークやホテル内の店舗で提供しているお買い物袋の原料の一部を、サトウキビの搾りかすを使用したバイオポリエチレンに順次、変更しています(⇒P.25)。このお買い物袋は、石油系ポリエチレンを使用した従来品に比べ、年間のCO₂排出量を約30%削減することができます。今後も、テーマパークにおけるLED化をさらに進めるなど、幅広く地球温暖化防止に貢献してまいります。

Q 今後の成長に向けたCSRの取り組みについて教えてください。

OLCグループは昨年、10年後に目指す状態として「2023ありたい姿」を策定しました。これは「コア事業の長期持続的な成長」と「新規事業による更なる成長」を2本柱として、長期的な視点に立った経営を志向するものです。特に「コア事業の長期持続的な成長」においては、低年齢層のゲストを含むファミリーや中高年層のゲスト、海外ゲストなど、あらゆる層のゲストの取り込みを強化することを目指しています。お子さまからお年寄り、多様な文化を持つ外国人など、幅広い方々の多様な価値観やニーズに対応するためには、新たなプロダクトの拡充やより快適な環境づくりに向けた整備など、さらなる進化が必要です。また、OLCグループがハピネスを提供し続けるためには、それを支える人財の採用や育成が重要です。テーマパークオペレーションに関する「プロフェッショナルとしての人財育成」や「魅力的な人財の採用力」の強化を通じ、テーマパーク全体のオペレーション力やホスピタリティをさらに向上させることを目的に、2016年4月からは新たな社員雇用区分として、「テーマパークオペレーション職」(⇒P.14)を設置します。これに伴い、現在在籍するテーマパーク社員(有期雇用)は社員雇用区分(無期雇用)に移行いたします。また、ホスピタリティにおいて中心的な役割を担う準社員についても、処遇の改善や福利厚生充実、準社員向けプログラムの拡充などを推進し、すべての従業員が働きがいや成長を感じることのできる職場づくりを目指します。これからも、CSRの視点からさまざまな取り組みを進め、「2023ありたい姿」の実現をより確実なものにしていきたいと考えています。

OLCグループが提供する「ハピネス」は、50年先、100年先も変わることのない普遍的なものであり、これが私たちの原点です。これからもCSR方針である5つの「大事にしたいこと」を、従業員一人ひとりが常に心にとどめながら、社会やさまざまなステークホルダーの皆さまとの良好な関係を構築し、CSRを進めてまいります。

今後とも、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集

東京ディズニーリゾートを支える
「現場力」

OLCグループは、テーマパークやホテルなどのさまざまな事業を通して、皆さまの心に潤いと活力を提供することを目指してきました。この事業活動を支えるものとして、創業の精神や企業理念、連綿と継承され向上し続ける技術力、人財育成、安全・品質管理といったさまざまな取り組みがあげられます。そして、これらの取り組みが結集し、力が発揮される場所こそが「現場」です。本特集では、「音」「あかり」「動き」など、ショー要素の設計・製作・メンテナンスを通して、テーマパークを訪れるゲストの皆さまの体験価値を技術面から支える「現場力」について、ご紹介します。

※所属・役職は2015年7月のものです



音

ショー技術部
ショーシステムグループ
オーディオ・ビデオユニット
ユニットマネージャー
吉田 守男

あかり

ショー技術部
ショーシステムグループ
ライティングユニット
ユニットマネージャー
益田 哲也

動き

ショー技術部
メカニカルサポートグループ
アニメーションユニット
ユニットマネージャー
近藤 裕人

体験価値を支える
「音」「あかり」「動き」

—— まずは皆さんの業務内容について
お話しください。

吉田 オーディオ・ビデオユニットでは、テーマパーク内にある「音」と「映像」の品質管理および新規、更新による設備設計・施工を行っています。パークにある約12,000個のスピーカーのほか、それを制御するシステムが業務の範囲となります。音楽が途切れなく流れるよう確認するとともに、音響・映像機器の品質維持に努めています。また、新しいアトラクションや施設をつくるプロジェクトにも音と映像の面から携わっています。

益田 ライティングユニットでは、テーマパーク内にある「あかり」の品質管理および新規、更新による設備設計・施工を行っています。パークにある約85,000点以上の照明機器と、それを制御するシステムが業務の範囲となります。パークの照明は、明るさだけではなく、エリアや施設のテーマ性の演出を担うものも多く、日々その品質の維持向上に取り組んでいます。また、新規施設の建設や改修に際しても、あかりの面から携わっています。

近藤 アニメーションユニットは4つの専門チームで構成されています。テーマパーク内の約3,400体のオーディオアニマトロニクス・フィギュア※（以下AAフィギュア）を対象とし、動作のクオリティが設定通りかを確認する品質管理業務、ペイントやスキン（皮膚表現技術）といった外観全般の品質保全業務、駆動部品や制御部品の分解整備業務、更新改良やさらなる品質向上を目的とした設計製作施工業務を行っています。

※音と動きを同調させるように制御されたシステムで動く、人間や動物などを表現する機械



カントリーベア・シアターのAAフィギュア

世界観を忠実に再現しながら ゲストニーズにあわせて進化

—— ディズニーテーマパークの世界観を表現するために、それぞれどのような工夫をしていますか？

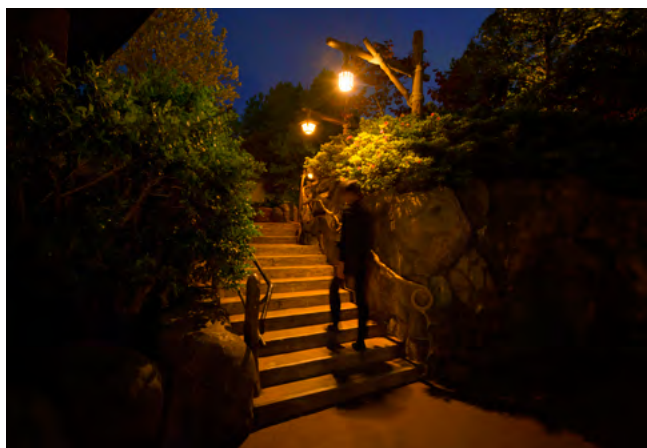
吉田 一番重要なことは、音がどのようにゲストに聞こえているかということです。そのために、パークオープン前やクローズ後に実施した作業であっても、必ず運営時間中にゲストの気持ちになってチェックしています。しかし、音はあくまでも脇役です。ディズニーテーマパークの世界観の隠し味となるような、演出を心がけています。例えばエリアごとに異なる音の演出をしているため、その境界では噴水や川の水の音などを使って、今までのエリアの音を消しながら、違和感なく次の世界観へ誘導する工夫を行っています。またレストランでは会話の邪魔をしないような雰囲気づくりをし、アトラクションでは、ストーリーにあわせた音の演出をすることで、



エリアの境界にある川

ゲストが自然とその世界に入っていけるようにしています。このように、音は名脇役として、なくてはならないエッセンスになっています。

益田 照明は、エリアや施設ごとのテーマに沿った明るさを含めた演出を行っています。数十年同じ明るさを維持してきたとしても、年代による見え方の変化やほかの商業施設の明るさの変化などにより、ゲストの感じ方は時代を経て変わってきます。それを踏まえたいうですべてのゲストがより快適にお過ごしいただけるよう、また設置場所がストーリーの中でどういう設定なのか、それにあわせてどういう演出が必要かを勘案しながら、手を加えています。



クリッター・カントリーの世界観を演出し、階段の安全性を確保

テーマパークの音を 演出する現場力



オーディオ・ビデオユニット
吉田 守男

音量や音質を測定する装置もありますが、最終的に判断するのは私たちの耳です。なぜなら音は、ゲストの耳に届けるものだからです。園内ではさまざまな音が混ざりあっていますが、私たちはそれらを聞き分けるスキルを持っています。また、スタジオのような精練された環境で音を聞いたり、測定データと自分の感覚を照らしあわせたりしながら、多種多様な音を聞いて耳を鍛え、感覚を磨き、音のプロとして品質の維持向上に努めています。



近藤 AAフィギュアの動きと外観は、ディズニー本来の世界観を忠実に再現し、それを日々維持していくことが非常に重要です。私たちは高いクオリティでゲストにディズニーの世界観を体験していただくため、写真や動画といったドキュメントをもとに、色や形、質感、そして動きを綿密にチェックしています。

近年では、フィギュアの表情や皮膚などの表現を、映画のキャラクターにより近づける演出をするといった品質の向上を図っています。

また「ジャングルクルーズ：ワイルドライフ・エクスペディション」などの、屋外に設置されたフィギュアに対する塗料や材質の研究開発にも取り組んでいます。



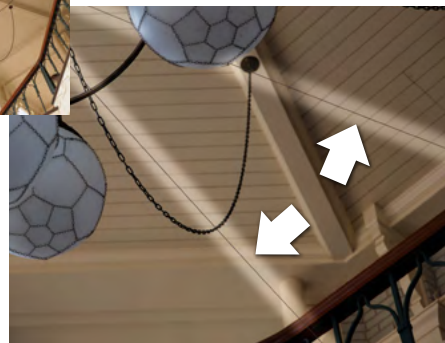
AAフィギュアの動きを綿密にチェック



安全・安心を最優先し 常に万全の対策を

—— 安全と安心を確保するための工夫は？

益田 照明については、ゲストが園内で安全かつ快適に過ごせるよう、一定の明るさを維持する必要があります。しかし明るさを優先しすぎると、テーマ性が損なわれてしまいます。そこでテーマ性を保ちつつ、安全性を確保するということを心がけています。また日々の点検に加え、地震対策を考慮した独自の設置基準に則した施工管理や、海に近いという立地を踏まえた塩害や強風への対策など、安全対策を万全にするよう心がけています。

振れ止めワイヤーで
強風対策

テーマパークのあかりを 演出する現場力

ライティングユニット
益田 哲也

私たちはパーク内を歩いているだけで、ゲストにはわからないような微かな明るさの変化にも、敏感に反応することができます。同じ光源でも周囲の明るさや使う場所によって、見え方・感じ方が変わるため、実際に現場で照明による効果を数多く見て、その感覚を高めることが大切です。照明機器の交換や更新に際し、照明効果が損なわれないよう技術者が一つひとつ調整しますが、これもやはり現場の状況をよく知らないといけないことです。



近藤 AAフィギュアも、構成部品や設置方法の強度検証をおこたりません。定期点検に加え、セーフティーワイヤーを用いた転倒や落下防止などの安全対策を実施しています。また、安全であっても各種安全対策の様子がゲストから見えては夢が壊れてしまいますので、ゲストから見えないようにする配慮も欠かせません。

吉田 園内ではいろいろな場面を演出する音楽を流している音響設備のほかに、普段音楽を流さない場所にもスピーカーを設置し、非常時にあらゆる場所で、ゲストに避難誘導のアナウンスが聞こえるよう取り組んでいます。

共同開発でのLED化を進め 約1,600tのCO₂を削減

—— 地球環境保全のための取り組みなど
ありますか？

益田 テマパークでは、一般白熱電球だけでも約30,000球使用していますが、LEDをはじめとする次世代光源の性能が上がってきていることから、2011年から順次光源のLED化を推進しています。LED化を進めたことでパーク内の照明によるCO₂排出量は、この3年で約1,600t削減されました。また、「スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャー

ズ・コンティニュー」では、2013年のリニューアルに際し、ショーを演出するすべての照明にLEDを採用しました。今後も新規施設におけるLED機器の採用や、大型施設で使っている照明のLED化に取り組んでいきます。



LEDへの変更が進む
東京ディズニーリゾート



長年の勘や経験を次の世代へ

—— 次世代への技術の継承のための取り組みや、
ユニットマネージャーとして常に心がけている
ことについて教えてください。

近藤 東京ディズニーランドが開園して30年以上がたち、技術やノウハウをどのように伝承するかは、私たちにとっても大きな課題です。ペイントやスキンといったAAフィ

テーマパークの動きを 演出する現場力



アニメーションユニット
近藤 裕人

AAフィギュアの動きの表現と演出のクオリティは、外観や駆動装置のほか、音響や照明などの多くの要素で構成されています。テーマ性にあわせ設定通りに動作しているかを、さまざまな側面から確認することが重要であり、一人ひとりが自分の専門性を突き詰めていくことが大切ではないかと考えます。その技術力をもって、毎日現場で起こっている現実を的確に捉え、課題を理解し、次につなげる実行力。その総合力が、現場力といえるのではないのでしょうか。



ギュアの外観全般の品質保全業務、駆動部品や制御部品の分解整備業務には熟練した専門技術が必要とするため、現場でのOJTを中心とした人から人への長期的な教育が不可欠です。そこで私たちは、専門技術の習得と経験値の伝承を目指し、技能やノウハウを言語や数値に表した手順書やトレーニング資料などのドキュメントを残す「見える化」を進めています。

アニメーションユニットは、異なる専門の技術者の集まりです。ユニットマネージャーとしては、一人ひとりが意見を出しあい気づきあうことで、迅速かつ的確に問題を解決する職場づくりと、メンバーを牽引する実行力の両立を常に意識しています。

吉田 技術部門ですので「もの」を扱う仕事ですが、現場を支えているのはそこで働く「人」です。人が最大限力を発揮するためには、働きやすい現場環境を整えることがユニットマネージャーとしての役割だと思います。われわれの業務は、協働で進める仕事ばかりです。お互いの持ち場を尊重しながら、人を活かせる現場をつくることが重要です。

益田 私たち技術職は、それぞれが異なる分野の専門家ですが、だからといって一人で仕事が完結するわけではありません。ユニットマネージャーとしては、常に個で完結させず、組織で仕事をするということを心がけています。一

人だけで考えるのではなく、チーム内で意見を交換することはもちろん、他部署の専門的な知識や情報も共有することで、一人ではできない仕事ができ、そこで自分の技術をより発揮できると思います。



現場、現物、現実を重視する「三現主義」でより豊かな体験価値を提供します

ショー技術部長 朽方 嘉久

ショー技術部は、2つの広大なテーマパークすべてのショー要素*に対し、設計、製作、メンテナンス業務を担っています。これらの業務は、ゲストの体験価値と直結しているため、バックステージで図面や機器を見るだけでなく、実際に園内やアトラクションなどの施設(現場)に行き、そこにある装置や設備(現物)を自身の目で確認し、どのような課題(現実)があるか把握する「三現主義」を重視しています。すべての業務のベースは現場であり、私自身もできるだけ現場に足を運び、五感で確認するようにしています。

私たちは、ゲストのニーズや視点をくみ取り、それを技術面でどう反映させていくかということを常に求められています。複数の専門集団組織であるため、一人の専門技術をどのようにほかの専門技術と融合させ、ショー・クオリティの維持向上を図るのか、また、それをゲストの体験価値にどのようにつなげ、高めることができるのかということを忘れないようにしています。

これからも三現主義を基本姿勢とし、従業員が現場で最大限の力を発揮できる環境整備や育成を促し、ゲストの皆さまが安心し、信頼し、そしてショー要素も楽しんでいただけるパークを提供していきます。

※音、あかり、アニメーションなどを含めた、空間および施設の演出全般

5つの「大事にしたいこと」への取り組み

ここからは、OLCグループCSR方針が示す5つの「大事にしたいこと」への取り組みをご報告します。

*** 社会からの信頼につながる誠実さ ***



Snapshot

東京ディズニーランドと東京ディズニーシーの施設数

アトラクション

商品施設

飲食施設

79 施設

88 施設

92 施設

(2015年7月現在)

Social Issues

さまざまな生活シーンにおいて、消費者の安全への関心が高まっています。また企業は、近年新たに策定されているコーポレートガバナンス・コードとその根底にある考え方を活用して透明性・公正性を向上し、より迅速・果断な意思決定を行うことを求められています。

OLC's View

お客さまの安全を確保し安心してお楽しみいただくことは、私たちが提供するハピネスの基本であり、最も重要な責任です。また企業として誠実であり続けることが、ステークホルダーとの信頼関係を築き、持続的な成長・発展につながります。私たちはこれからも「夢、感動、喜び、やすらぎ」の提供という企業使命を着実に遂行するため、コーポレート・ガバナンスの強化に努めます。

I 安全・安心の確保 (テーマパークの安全)

OLCグループは、ディズニー社がディズニーテーマパークで培ったノウハウを取り入れ、ゲストの皆さまの安全を最優先するテーマパーク運営に取り組んでいます。

東京ディズニーリゾートの行動の鍵となる「SCSE」(ディズニーテーマパーク共通の行動規準)

ディズニーテーマパークには、「SCSE」という行動規準があります。「SCSE」はSafety (安全)、Courtesy (礼儀正しさ)、Show (ショー)、Efficiency (効率)の頭文字を取ったもので、その並びがそのまま優先順位を表し、安全を最優先することを明確にしています。

ディズニー社のライセンサーである当社にとっても、「SCSE」は、東京ディズニーランド、東京ディズニーシー

を運営するにあたって最も大切にしている規準です。すべてのキャストは、「SCSE」を念頭に置き、常に判断や行動のよりどころとしています。



●より詳しくは ● <http://www.olc.co.jp/csr/safety/index.html>

東京ディズニーリゾートのアトラクションの安全

■ ハード面での取り組み

すべてのアトラクションが、「安全」を最優先として設計され、セーフティーバーや自動開閉ゲート、ゲストの柵越えや飛び出しを想定した設備の設置、身長による利用制限の設定なども進めています。

アトラクションを含む施設全体のメンテナンスは、総勢約1,000名に及ぶ技術者*がシフトで点検することで安全性を確認・管理しています。法定点検の実施に加え、自社整備基準に基づき、日常点検・定期点検、整備を行っています。

一定規模以上の地震が発生した場合、アトラクションでは、ゲストが安全に降車できる場所で停止させ、避難通路にて安全に避難できるようになっています。そして、地震規模に応じて設定している点検基準・項目に則り、点検を実施し、アトラクションの安全性を確認します。

*メンテナンスを行う技術者には、株式会社オリエンタルランドの技術本部に所属する社員やOLCグループ内のメンテナンス子会社、協力会社の社員が含まれます



乗車時の安全性を高める、自動開閉ゲート



■ ソフト面での取り組み

アトラクションを安全に動かすためには、オペレーションを担当するキャストによる安全確認が重要となります。例えば「スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー」では、ゲストがシートベルトを締めた後、キャストがシステム上でロックされているかの確認を行ったうえで、さらに、ゲストにシートベルトを引っ張っていただき、きちんとロックされていることをゲストとキャスト双方で確認する手順を徹底しています。

新人キャストは、マニュアルの手順に沿ったオペレーションを身に付けるだけでなく、どんな状況でも柔軟な対応ができるよう、先輩キャストとのOJT(実地トレーニング)を繰り返し、見極め期間を経てひとり立ちします。またキャスト教育として、パークオープン前やパーククローズ後などの時間帯を使い、アトラクションを停止させて実施する避難誘導訓練を定期的に行っています。



出発前の安全確認



東京ディズニーリゾートのショー・パレードの安全

■ ハード面での安全管理

パレードやステージショーなどのエンターテインメントショー製作物については、安全に関するガイドラインを定め、その内容に沿って、設計、施工管理、点検、整備作業を行うことで安全管理を徹底しています。

■ 製作・点検における安全確保

フロートやステージ、大道具などは『エンターテインメント設備機器の製作・工事管理ガイドライン』に基づいて製作しています。点検・整備については、『メンテナンスガイドライン』に沿って、プログラムの特性を盛り込んだメンテナンス計画を作成しています。

■ オペレーションにおける安全確保

キャストは、ショー・パレード時の安全確保に向けて、「SCSE」の行動規準の徹底と定期的な教育を通じて、起こり得る事態を常に予測しながら業務に臨むとともに、緊急時には迅速で的確な対応が取れるよう、意識付けされています。



パレードルートに配置されたキャスト

東京ディズニーリゾートのお買い物の安全

■ 商品の安全を確保する体制

日本の法律はもとより、欧州・米国の品質基準を取り入れた独自の品質検査基準を設定し、すべてのオリジナル商品に対して第三者機関による検査を実施しています。また、お取引先には、それぞれの商品の性質や分類に応じて、株式会社オリエンタルランドの担当者や第三者機関が実施する製造工場監査や製造工場出荷前検品に協力いただいています。商品に関するお問い合わせやご意見・ご要望には商品ゲストサービスが対応します。

■ 商品開発における配慮

テーマパークにおける商品開発では、お子さまのさまざまな行動にも配慮することが必要となります。そのため、見た目や機能だけに着目するのではなく、激しくぶつけたり噛んだりしても損壊しにくいような設計となるよう独自基準を設定するとともに、事前に衝撃落下・引っ張り・圧縮などのテストや化学検査を行い、安全を確認しています。



東京ディズニーリゾートのお食事の安全

■ テーマパークの食品安全を確保する体制

東京ディズニーランド、東京ディズニーシーの飲食施設において、国際的な安全管理手法であるHACCP（ハサップ）システムの考え方を取り入れ、衛生管理を行っています。また、食品を納入いただくお取引先を選ぶ際には、食品衛生や食品検査体制など30項目以上からなる自主基準「取引先選定基準」を採用しています。また、飲食施設のオリジナルフード、原材料を製造委託する食品工場の評価を定期的実施しています。



提供前に芯温を確認

■ 食品安全教育

食品に携わる従業員を対象に、食材の取り扱い方法などの食品衛生に関する教育プログラムを実施しています。



キャストは、手洗いを徹底

■ アレルギーをお持ちの方への対応

東京ディズニーランド、東京ディズニーシーでは、5大アレルゲン（小麦、そば、卵、乳、落花生）を原材料に使わない「低アレルゲンメニュー」を扱う店舗をご用意しています。また、ご来園前にメニューのアレルゲン情報をご確認いただけるよう、2014年4月から東京ディズニーリゾート・オフィシャルウェブサイト内に「アレルゲン情報検索」ページ（<http://fsp.tokyodisneyresort.jp/>）を公開しました。



「アレルゲン情報検索」ページ



アレルゲン情報を記載したメニュー

東京ディズニーリゾートの警備・救護・防災

■ 警備(セキュリティ)・救護

警備に関する取り組みとしては、テーマパーク内のパトロールや手荷物チェックを行うほか、東京ディズニーリゾート周辺のパトロールなど、広い範囲での防犯活動も行っています。

救護に関する取り組みとしては、東京ディズニーランド、東京ディズニーシー内に、各4カ所の救護室を設けています(稼働する救護室は、運営状況に応じて変更があります)。緊急時には、傷病者のもとへ救護室キャストが出動する体制を整えています。また、東京ディズニーリゾート内各所にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。



入園前の手荷物検査



中央救護室

■ 防災

東京ディズニーリゾート内では、防災担当専門部署が「総合防災監視センター」を運営し、24時間体制で警戒を行っています。また、区画を分けた年4回の総合防災訓練、建物ごとに計画された年間約160回の訓練を行っています。

また、地震リスクについては、物資・資材、救護計画などを定めた地震対策基本計画に基づき、各部門が取るべき行動を示した対応マニュアルを整備しています。大規模な地震発生時には、社長を中心とした「地震対策統括本部」を設置し、対応にあたります。



総合防災監視センター



防災訓練は年間約160回

❖ TOPICS ゲスト参加型防災訓練

2014年10月、さらなる災害対応力の向上を目指し、開園前の東京ディズニーランドにおいて、約2,100名の従業員の家族をゲスト役とした「ゲスト参加型防災訓練」を昨年に引き続き実施しました。社内事情を知らないゲスト役を加えることで、より実践的な訓練となりました。

ゲスト参加型
防災訓練

東京ディズニーリゾートのキャストの安全

東京ディズニーリゾートでは、ゲストの安全に加え、キャストの安全も重視しています。例えば、水面近くで勤務する「ヴェネツィアン・ゴンドラ」のキャストは、水感知機能の付いた自動膨張式救命衣を装着し、安全確保に努めています。また、熱中症対策として、勤務中でも水分補給ができるよう、テーマパークのコスチュームの雰囲気を損なわないペットボトルケースを導入しています。

水感知機能の付いた
自動膨張式救命衣熱中症対策のため
ペットボトルを携帯

II マネジメント体制

健全なマネジメント体制を構築し、企業として誠実であり続けることは、CSRならびにあらゆる事業活動の基礎と考えています。企業経営の透明性と公正性を高めることが、ステークホルダーとの信頼関係を築き、持続的な成長・発展につながります。OLCグループは、「夢、感動、喜び、やすらぎ」の提供という企業使命を着実に遂行するために、コーポレート・ガバナンスの強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス

OLCグループの中核である株式会社オリエンタルランドは、取締役の役割を「監督」主体として経営の監督機能を強化しつつ、執行役員への権限委譲を通じて意思決定の迅速・適正化を図っています。

また、監査役制度を採用しており、「監査役会規則」と「監査役監査基準」を制定し役割と職責を明確化しています。監査役4名のうち3名が社外監査役です。

さらに財務報告の信頼性を確保するための推進組織として「内部統制推進会議」を設置し、OLCグループの内部統制に関する体制を整備しています。

コンプライアンス

役職員の倫理・法令遵守に関する『OLCグループ・コンプライアンス行動規範』に加え、具体的な行動基準として『ビジネスガイドライン』を定めています。推進組織として「コンプライアンス委員会」を設置し、社内外に相談通報窓口も整備しています。また、定期的な社員教育や遵守状況のモニタリングも行い、2015年1月には「ハラスメント」に関する理解促進をテーマとした「コンプライアンス強化月間」を実施しました。

人権に関する取り組み

OLCグループでは『OLCグループ人権に関する基本方針』を制定し、企業活動における人権尊重についてグループ内に明示しています。『ビジネスガイドライン』においても人権の項目を設け周知しています。また、研修を実施し、日々の業務における人権尊重の実践を促しています。

リスク管理と情報セキュリティ

『OLCグループリスク管理規程』に基づき、幅広いリスクの予防・対応を行っています。また地震リスクについては対応マニュアルを整備、大規模な地震発生時には「東京ディズニーリゾート地震対策統括本部」を設置し、対応にあたります。情報管理に関する基本的な考え方は『OLCグループ情報セキュリティ基本方針』に示し、2013年1月には『OLCグループソーシャルメディアガイドライン』を策定しました。

積極的な情報開示

企業の情報開示に関する法令や規則の遵守はもちろん、事業活動を理解・評価するために必要と思われる情報を、ネガティブ情報を含め、プレスリリースやホームページ、説明会などさまざまな方法で公正かつ適時・適切に開示しています。

お取引先とのパートナーシップの構築

■ 健全で良好なパートナーシップの構築

お取引先との公正で適正な取引を推進するとともに、国際的な基準を参照して制定した『OLCグループお取引先行動指針』に基づき、法令遵守はもとより、製品の安全、労働者の安全と人権の尊重、環境保全といった幅広い社会的責任を考慮した取引を追求しています。

■ ディズニー・ブランド関連のサプライチェーン・マネジメント

テーマパークで販売している商品など、ディズニー・ブランドの物品の製造委託工場については、ディズニー社の国際労働基準プログラム(ILSプログラム)の遵守が義務付けられています。

*** 新たな感動を創造する活力あふれる人財 ***



Snapshot

有給休暇取得率

82.4%

サンクスデー参加者数

15,901人

(対象者数 23,671人)

Social Issues

現在、少子高齢化による労働力人口の減少や、働き方についての意識の多様化が進んでいます。企業には、基本的人権や個人の多様性を尊重し、雇用、労働条件、労使関係、安全衛生、人財育成などの幅広い視点から、ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現に向けた取り組みを、これまで以上に展開することが求められています。

OLC's View

OLCグループが提供する「夢・感動・喜び・やすらぎ」の源泉は、人財です。お客さまと社会にハピネスを提供し続けるためには、従業員一人ひとりのホスピタリティが欠かせません。私たちは、すべての従業員がそれぞれのポテンシャルを最大限に発揮しながら安心して働き、成長を実感し、働きがいを感じられるよう、さまざまな取り組みを行います。

人財に関する基本的な考え方

卓越したホスピタリティを提供する人財はOLCグループの強みの源泉であり、魅力的な人財の採用や育成は欠かすことのできない要素です。私たちは、全従業員が働きがいや成長を感じることができ、安心して働ける環境づくりを進めています。2016年4月より、社員雇用区分に新たな職域として「テーマパークオペレーション職」を設置します。



人財教育・支援体系

株式会社オリエンタルランドでは、経営姿勢にある「個性の尊重とやる気の支援」の実現のため、従業員が自己実現を図るための機会の提供や、能力開発を支援するためのさまざまなプログラムを実施しています。また、雇用区分を超えた社内でのステップアップを促す仕組みとして、準社員からテーマパーク社員への登用を行っています。

主な人財教育

社員・テーマパーク社員	準社員
● 階層別研修 ● 若年層向け研修 ● 年代別キャリアデザイン研修 ● 自己啓発研修	● 部門ごとのトレーニング（OJT/実地トレーニングを含む） ● スキルや経験に応じた5段階のステップアップ制度および教育プログラム ● トレーナーとして後輩を指導する制度
※ ディズニーのフィロソフィー（哲学）やショービジネスについて学ぶプログラムは全従業員共通で実施	

●より詳しくは ● <http://www.olc.co.jp/csr/index/relation.html>

企業風土とES(従業員満足)

株式会社オリエンタルランドは「夢、感動、喜び、やすらぎ」を提供し続け、常に新たな感動を創造し続けるための企業風土を育んでいます。男女の分け隔てがない社風、人の喜びを自分の喜びと感じるマインドなど、当社ならではの企業風土が培われ、受け継がれています。また、従業員満足(ES)を高め、意欲的に仕事に取り組めるよう、独自のユニークな施策を導入しています。人財を活かす取り組みの例としては「I have アイデア」などがあります。これは、ゲストに喜ばれる商品やフード、ゲストサービスのアイデアなどを、組織や立場の枠を超えて、すべての従業員が気軽に提案できる制度です。



「I have アイデア」表彰式

東京ディズニーリゾートのES活動

■ スピリット・オブ・

東京ディズニーリゾート

キャスト同士が、仲間のすばらしい行動に対し、称えあう活動です。優れたキャストが「スピリット・アワード」を受賞します。



メッセージカードと「スピリット・アワード」の受賞者に贈られるスピリット・アワードピン

■ ファイブスター・プログラム

上司が、すばらしい行動をしたキャストを見かけた際、その行動を称えるためにカードを手渡す活動です。



すばらしい対応を行ったキャストを称えるファイブスターカード

■ サンクスデー

年に1回、閉園後に役員や社員・テーマパーク社員が、キャストとして働く準社員をゲストとして迎え、感謝の気持ちを伝えます。



カストーディアルキャストを演じる上西社長と記念撮影する準社員

仕事と生活の調和

株式会社オリエンタルランドでは、従業員が私生活を充実させながら、仕事上でより高いパフォーマンスを発揮できるよう、育児・介護と仕事の両立など、仕事と生活の調和を支援するさまざまな制度を整えるとともに、それを支える風土づくりにも努めています。2014年度の社員における有給休暇取得率は、82.4%に達しており、半日単位や時間単位での取得も可能です。



安全衛生

株式会社オリエンタルランドでは、社長をはじめとした経営層による定期安全パトロールを実施し、職場環境を確認するとともに、安全についての呼びかけを行っています。また、「ラインマネジメント」を通じたPDCAサイクルの徹底、リスクアセスメント手法の活用、職場ごとの特性にあわせたKYT（危険予知トレーニング）や労働災害リスクを職場単位に落とし込んで可視化したマップなどを利用した主体的な安全衛生活動などの取り組みを強化しています。特に準社員に対しては職場で安全に勤務できるよう、入社時の安全教育、OJT、各組織の業務特性を反映した安全教育プログラムを実施しています。

また、心と体の健康増進に向けた取り組みとしては、健康管理センターに常駐している産業医、保健師が従業員の心身の健康増進の支援を行っています。ここでは各種健康診断の実施とその後のフォローを軸として、産業医による面接指導、保健師による保健指導を行っています。



社長による定期安全パトロール



産業医、保健師が常駐する健康管理センター

障がい者雇用

株式会社オリエンタルランドでは、特例子会社の株式会社舞浜コーポレーションを中心に、障がい者雇用に取り組んでおり、障がい者雇用率は、2.15%（2015年6月1日現在）となり、法定の2.0%を上回っています。株式会社舞浜コーポレーションでは、花卉の栽培や商品の値札の作成と貼り付けなど、一人ひとりの特性に応じた仕事を提供し、職域開拓を行っています。

またOLCグループでは、障がいのある従業員に配慮した設備や就労支援体制を整備することで、充実した仕事ができる職場環境を整えています。



花苗の手入れなど、繊細な仕事を担当

特例子会社における職種例

領域	主な業務内容
メールサービス	テーマパーク内で投函される郵便物への記念スタンプ押印、OLCグループ各社の社内外の郵便物の集配・仕分け、社外郵便物の発送処理
ナプキン折り	テーマパークのレストランで使用される布ナプキン折り
マーキング	テーマパークにて販売されている商品の値札作成、貼り付け
ランドリー	テーマパークのコスチューム（小物）などのクリーニング、アイロンがけ
パーバー	従業員向け理容サービス
マッサージ	従業員向けマッサージサービス
遺失物センター	テーマパークの拾得物の取り扱いに関する業務
3Dメガネ洗浄	テーマパークで使用される3Dメガネの洗浄および点検業務
セントラルキッチンサポート	セントラルキッチンでの容器などの洗浄業務
花卉栽培	テーマパークの花卉栽培

*** お客さまと社会にひろがるハピネス ***



Snapshot

東京ディズニーランド・
東京ディズニーシー
2014年度入園者数

「Make Happiness!」
寄付金

31,377千人 約2,023万円

Social Issues

お客さまの価値観が多様化し、解決すべき社会課題も多岐にわたる現在。企業は時代に応じて変化する課題やニーズに対応しながら、日々の健全な事業活動を通して自身の企業価値を創造し、持続的に成長する必要があります。また同時に、この事業活動を通して、社会が直面している課題解決に貢献するという好循環を生み出すことも求められています。

OLC's View

OLCグループは、さまざまな形態のファミリーや外国人など、お客さまの多様化するニーズの変化に目を凝らし、常に進化を続ける姿勢を保ち続けます。また、子どもや高齢者、障がい者まで広く社会的な視点を取り入れた事業活動を通して、これからもお客さまと社会にさらなるハピネスを提供し続けることを目指します。

お客さまと社会にハピネスを届ける

ハピネスは、テーマパークで働くキャスト一人ひとりの心に刻まれた大切な言葉です。「お客さまと社会にひろがるハピネス」とは、これまでテーマパークでゲストの期待に応えてきたように、お客さまの価値観の多様化や、環境問題をはじめとするさまざまな社会的関心に注意を払うとともに、お客さまを取り巻く社会を意識した事業活動をし

ていくことにほかなりません。

またテーマパーク内には、ホスピタリティや建築、美術、文化、歴史、映像、音楽、植栽などについて、楽しみながら自発的に学べる要素が数多くあります。こういった「楽しみながら学ぶ」機会も、当社グループが社会に提供するハピネスのひとつといえます。

東京ディズニーリゾートのハピネスとホスピタリティ

OLCグループは、テーマパーク事業を通じて、ハピネスを提供し続けています。ハピネスを提供するためには、アトラクションやショー、パレードのクオリティの高さや魅力的な空間づくりに加えて、テーマパークで働く従業員、キャストのホスピタリティが欠かせません。

私たちは、ゲスト一人ひとりの期待を理解するとともに、その期待に応え、さらには上回るサービスが提供できるよう「おもてなし」の精神を大切にしています。



●より詳しくは ● <http://www.olc.co.jp/csr/index/social.html>

東京ディズニーリゾートのお子さまの健康に配慮したメニュー

東京ディズニーランドホテルのbuffetレストラン「シャーウッドガーデン・レストラン」では、お子さま向けの低いbuffetカウンターを設置し、お子さまでも食べやすく調理した野菜のパフェやパン、豆乳のスープなどを提供しています。食が偏りがちなお子さまでも楽しくおいしく食事を摂ることができ、自然と「食育」につながる工夫をしたメニューを体験できます。

※メニューは季節などにより異なります



東京ディズニーランドホテルの食育につながるメニュー

東京ディズニーリゾートの舞台で演技・演奏する機会の提供

東京ディズニーランドと東京ディズニーシーでは米国のディズニーテーマパークにならい、アマチュアグループの方々にテーマパークで演技・演奏する機会を提供する「ミュージック・フェスティバル・プログラム」を開催しています。参加者にとっては、東京ディズニーリゾートの“キャスト”として出演し、エンターテインメントの楽しさと夢を実現する喜びを感じていただける場となっています。東京ディズニーランドでは1983年の開園当時から、東京ディズニーシーでは2005年から実施しており、2014年度は約180組のグループが出演しました。



アマチュアグループがテーマパークで演技・演奏を披露する「ミュージック・フェスティバル・プログラム」

東京ディズニーリゾートのクリスマス寄付つき商品施策「Make Happiness!」

東京ディズニーリゾートでは2013年より、ハピネスをゲストとともに世界の子どもたちにお届けしたいとの想いから、寄付つき商品施策「Make Happiness!」を実施しています。2014年も11月1日～12月25日の期間中、ゲストにご購入いただいたクリスマスのスペシャルグッズの税抜き販売価格の10%をユニセフに寄付する施策を実施しました。2,023万6,117円の寄付金は、ユニセフの「スクール・フォー・アジア(アジアの子どもた

ちに教育を)」*を通じアジアの子どもたちの教育支援事業に役立てられています。

※アジア・太平洋諸国地域の困難な立場に立たされている子どもたちに教育の機会と質の高い教育を提供することを目指し、ユニセフが取り組んでいる教育支援イニシアチブ



「Make Happiness!」の寄付つき商品



教育が子どもたちの未来をひらく 公益財団法人日本ユニセフ協会 鈴木 有紀子

「Make Happiness!」を通じてユニセフの教育事業を支援したいとかがったとき、子どもたちにHappinessを届けるすばらしい取り組みになると確信しました。子どもたちは教育を受けることで、その後の人生に欠かせない学力やライフスキルを身に付け、将来の夢を持ち、コミュニティにより良い変化をもたらします。教育の課題が残るアジアでより多くの子どもたちに教育の機会を確保するため、これからも支援の輪が広がっていくようにと願っています。

東京ディズニーリゾートのゲストの声に学ぶ取り組み

私たちはゲストの声に耳を傾け、常に進化する東京ディズニーリゾートを追求しています。テーマパークの各施設や「東京ディズニーリゾート・インフォメーションセンター」、ご来園いただいたゲストのアンケート、インタビューなどを通してゲストの声を収集しています。収集したゲストの声は社内で共有され、安全、サービス、施設などに関する幅広い改善策に活かされています。



ゲストの声をもとに、夏の暑さ対策としてミスト(霧状の水)の散布を実施

東京ディズニーリゾートのノーマライゼーションの追求

■ すべてのゲストに楽しんでいただける環境づくり

ノーマライゼーション*の考えのもと、東京ディズニーリゾートを訪れるすべてのゲストに楽しんでいただける環境づくりを目指しています。

東京ディズニーリゾートを訪れるゲストの中には、障がいのある方もいらっしゃいますし、また、怪我などによって一時的に体の機能が低下している方、高齢の方や妊娠中の方もいらっしゃいます。施設・支援ツールの整備や、キャストによるサポートを通じ、快適で楽しい時間を過ごしていただけるよう努めています。

※障がいのある人を特別視せず、一般社会で普通の生活が送れるような環境整備を推進すること

■ キャストによるサポート

テーマパークのバリアフリー化は、テーマ性や非日常の世界の雰囲気を持続しながら行う必要があるために、施設面への取り組みだけでは限界があります。そこで、OLCグループでは、障がいのあるゲストが必要とされるサポートを適切に提供できるよう、サービス介助士の資格取得サポートなど、キャストの教育・研修に取り組んでいます。



手話講座を受講し、社内認定を受けたキャストが胸に着ける手話ピン

■ バリアフリーに配慮した施設や支援ツールの整備

東京ディズニーリゾートでは、東京ディズニーランドの開園当初から、バリアフリーの取り組みを行っています。ゲストや外部の障がい者団体などのご意見を参考にしながら、施設や支援ツールの整備に取り組んでいます。

現在提供している主なバリアフリー施設・支援ツール

対象	施設
車イスをご利用のゲスト	車イスを搭載できる乗り物、スロープ、エレベーター、車イスご利用ゲスト対応レジ、車イスご利用ゲスト優先レストルーム、身体障がい者補助犬(介助犬)の受け入れ
視覚に障がいのあるゲスト	常設触地図、スケールモデル(キャラクター、アトラクション)、音声ガイドシステム(東京ディズニーシー)、インフォメーションCD、触地図ガイドブック、身体障がい者補助犬(盲導犬)受け入れ
聴覚に障がいのあるゲスト	字幕テロップ、字幕表示システム、インフォメーションボード、ストーリーペーパー(主にシアター系アトラクション)、身体障がい者補助犬(聴導犬)の受け入れ



車イスのまま乗車できるアトラクション



プラットホームの床をかさ上げすることで、車イスのまま乗車できるように



手すりの幅の拡幅で、車イスご利用ゲストやお子さまに配慮

*** 未来をひらく子どもたちの笑顔 ***



Snapshot

「夢・感動塾」
のべ参加人数

338名

東京ディズニーリゾート・
アンバサダー訪問施設数

32カ所

Social Issues

企業は従業員や企業活動そのものを通じて地域社会と深い関わりを持っており、地域社会は企業の存立基盤であるといえます。そのため企業は社会・地域を構成する一企業市民として企業ならではの取り組みを通じて社会課題へ働きかけ、またコミュニティの発展へ貢献することが求められています。

OLC's View

OLCグループはお客さまと社会にハピネスを提供するという企業特性を活かし、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。特に子どもたちを育み、支えることを中心とした取り組みを通じて、次世代の育成やコミュニティの発展に貢献することを目指しています。また東日本大震災で被災された皆さまに対しても、継続的な支援を実施しています。

OLCグループの社会貢献活動

OLCグループは、企業市民としての責務を果たすため、継続的な社会貢献活動に取り組んでいます。中でも、「夢、感動、喜び、やすらぎ」を提供することを使命とする企業として、“心”に着目した活動に注力し、事業と関わりの深い家族、特に社会の未来をひらく存在である子どもたちを育み、支える活動を大切にしています。OLCグループは、2008年度に制定した『OLCグループ社会貢献活動方針』において、こうした姿勢を明示しています。



子どもたちを育み支える活動

子どもたちを育む活動として、「夢・感動塾」(⇒P.21)、地域の子どもたちに向けた「出張授業と職場体験」(⇒P.21)などに取り組んでいるほか、千葉県浦安市が実施するさまざまなイベントへの協力、従業員ボランティアによる市内の清掃活動、幼稚園や保育園で行われる運動会などへの協力など、地域の皆さまとふれあう機会を大切にしたい地域活動を実施しています。

また、子どもたちを支える活動として、従業員と会社が一体となった寄付活動「OLCグループ こどもスマイル基金」に加え、施設訪問などの東京ディズニーリゾートに関連した社会貢献活動も実施しています。

「夢・感動塾」

「夢・感動塾」は、子どもたちが夢を持ち、その実現に向けて一歩を踏み出すきっかけをつくるプログラムです。小学5、6年生が参加対象で、2012年から14回実施し、338名の子どもたちが受講しています。2014年度のプログラムでは、ショー出演者、衣装制作者、シェフから、夢に向かって努力することの大切さを学びました。



キャストとの交流を通して子どもたちの夢の実現をサポートする「夢・感動塾」

地域の子どもたちに向けた「出張授業」と「職場体験」

OLCグループでは、地域の子どもたちを育む活動の一環として、出張授業や職場体験学習にも積極的に協力しています。出張授業では、東京ディズニーリゾートの振付師やダンサーによるダンス指導を実施。職場体験学習では、東京ディズニーリゾートならではのさまざまな業務を通じて「働くことの意義・楽しさ」を伝えています。



出張授業



職場体験学習

東京ディズニーリゾートに関連した社会貢献活動

■ 東京ディズニーリゾート・アンバサダーの福祉活動

東京ディズニーリゾートを訪れることが難しい子どもたちに「ディズニーの夢」をお届けするため、東京ディズニーリゾート・アンバサダーとディズニーキャラクターが全国の施設（病院の小児科病棟、障がいがある方々の施設、養護学校など）を訪問する活動を実施しています。これは東京ディズニーランドオープン前の1982年から継続実施している取り組みで、2014年度は32カ所の施設を訪問しました。



笑顔を届ける2015-2016年東京ディズニーリゾート・アンバサダーとミッキー・マウス、ミニーマウス

■ 難病の子どもたちの夢をかなえるサポート
（メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンとの協働）

2012年より「子どもたちを支える社会貢献活動」の一環として、一般財団法人メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンとともに、難病の子どもたちの「テーマパークに行きたい」「ディズニーホテルに泊まりたい」などの夢をかなえるために、テーマパークチケットや客室の提供などを行っています。



子どもたちから届いたお手紙

■ 浦安市成人式への協力

2002年から、浦安市の成人式の会場に東京ディズニーランドをご利用いただいています。14回目を迎えた2015年1月12日の成人の日には、対象者の8割に近い約1,400名の新成人の皆さまが式典に参加されました。



東京ディズニーランドの「ショーベース」で、浦安市の成人式を開催



東日本大震災に関する取り組み

OLCグループは、東日本大震災で被災された皆さまに対し、継続的な支援を実施しています。テーマパーク事業を通じて「夢、感動、喜び、やすらぎ」を提供する企業として、中学生・高校生とのジョイントコンサートの開催や、新小学1年生への東京ディズニーリゾートの文房具のプレゼントなど、子どもたちに笑顔を届けるさまざまな活動に取り組んでいます。

従業員主体の被災地支援活動

■ 従業員食堂における寄付つきメニュー

構内7カ所の従業員食堂で「WE ARE ONE 心はひとつ スペシャルメニュー」と題した被災地支援のための30円の寄付がついたメニューを提供しています。従業員が寄付した同額を会社からも寄付し、集まった寄付金は、岩手県、宮城県、福島県の小学校に、それぞれ必要な備品を寄贈しています。この活動は、2011年11月から毎月第2週目の金・土曜日に実施しており、2014年度は、福島県相馬市の小学校10校を対象としました。



「WE ARE ONE 心はひとつ スペシャルメニュー」で跳び箱を寄贈



東京ディズニーリゾートに関連した被災地支援活動

■ 「WE ARE ONE 心はひとつ ジョイントコンサート」

東京ディズニーリゾート事業との関わりの深い「音楽」を通して、子どもたちをはじめ多くの皆さまへ笑顔をお届けしたいとの思いから「WE ARE ONE 心はひとつ ジョイントコンサート」を、2012年から開催しています。3回目となる2014年度は、福島県南相馬市民文化会館（ゆめはっと）で、地元相双地区の中学生と演奏を行いました。



会場全体の心がひとつになった演奏会



■ 文房具の寄贈

「子どもたちに楽しい気持ちで小学校生活をスタートしてほしい」との思いから、被災地の新小学1年生に東京ディズニーリゾートの文房具を寄贈しています。2015年春には岩手県347校、宮城県405校、福島県467校、計1,219校の小学校に合計約5万セットを寄贈しました。この活動は、東日本大震災を経験した子どもたちが全員小学校に入学するまでの6年間にわたって実施していきます。



被災地の新小学1年生に東京ディズニーリゾートの文房具を寄贈



*** かけがえのない地球環境への思いやり ***



Snapshot

太陽光発電
出力規模600_{kW}テーマパーク内の
リサイクル率

75%

Social Issues

地球温暖化をはじめとする環境問題は、人類全体で取り組んでいく必要がある重要な社会課題です。企業には持続可能な生産および消費につながるようビジネスモデルを見直し、より積極的に環境に対する責任を果たすことが求められています。そしてこの見直しは、企業自身の持続可能性にもつながります。

OLC's View

OLCグループはかけがえのない地球環境を次世代につなぎ、ハピネスを次世代にも提供し続けるため、環境活動に真摯な姿勢で取り組みます。特に気候変動に対しては、温室効果ガスの排出を抑制する活動のみならず、気温上昇などの影響がお客さまに及ぶことを最小限にするための「適応」への取り組みを推進しています。

環境保全に関する方針・体制

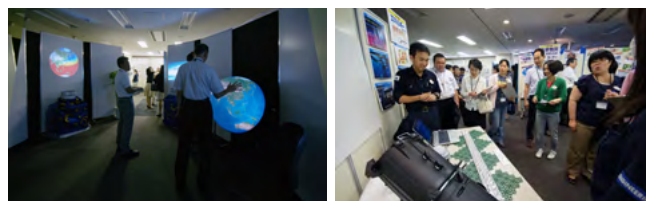
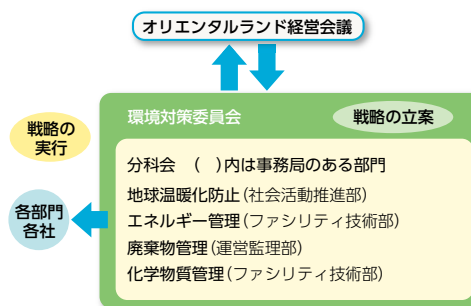
OLCグループでは『OLCグループ環境方針』を制定し、夢と感動を次世代にも提供し続けるために、すべての事業活動を通して地球環境との調和を図ることを掲げています。今後は、環境マネジメントを強化するとともに事業と環境の融和を進め、よりお客さまとの関わりを意識した活動を実施していく予定です。

環境活動の推進組織としては、「環境対策委員会」を設置し、環境対策に関わる目標や計画の策定を行っています。

従業員の環境保全意識の啓発においては、eラーニングによる環境教育や、キャストを対象にした社内報への環境情報の連載、環境をテーマにした社内イベントの実施など、さまざまな取り組みを行っています。

OLCグループ環境管理体制

OLCグループでは、環境対策を検討するための委員会を設けています

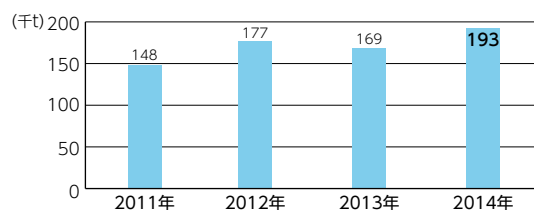


環境をテーマにした社内展示会「環境フェア」を実施

●より詳しくは ● <http://www.olc.co.jp/csr/index/environment.html>

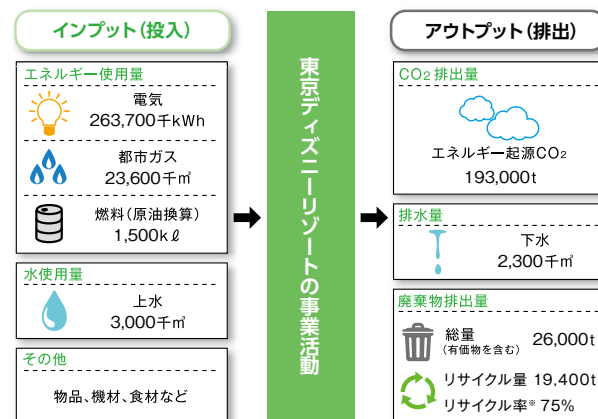
東京ディズニーリゾートの環境負荷マスのバランス

東京ディズニーリゾートの事業活動には、エネルギー管理や水処理、廃棄物管理・リサイクルなど、ひとつの街のような多様な機能が含まれています。そのため、さまざまな環境側面を考慮して事業活動が与える環境負荷の低減に取り組んでいます。

CO₂ 排出量の推移

※ 電力のCO₂排出量計算には東京電力の調整後係数を使用しています

東京ディズニーリゾートの環境負荷マスのバランス (2014 年度)



※リサイクル率の計算にあたり、2011年度からリサイクル量に産業廃棄物の減量分を含めています

地球温暖化への対策

OLCグループでは、建設段階から「資源のムダをなくす」ことに取り組み、現在では電力使用量の「見える化」をはじめとしたさまざまな施策を導入し、省エネルギー化に務めています。排出量の削減に向けては、中期計画を立て数値目標を設定しており、今後は、2016年度のCO₂排出量を、2012年度の係数で算出した178,000tに抑えることを目標に活動してまいります。また、2012年度の数値目標181,000tに対する約2,000tの未達成分については、2014年度より3年間、毎年2,000tのカーボン・オフセット[※]を実施しています。気候変動に対する適応の取り組みとしては、水資源の確保、熱中症予防、台風や雷雨対策などを実施しており、今後も温暖化による気候変動を想定した適応策の検討を継続していく予定です。

※自らのCO₂排出量のうち、どうしても削減できない量の全部または一部をほかの企業や団体の排出削減・または吸収量でオフセット(他者の削減成果による補填)すること

生物多様性に配慮するために

OLCグループでは、生態系へのダメージが少ない物品調達推進の一環として、紙の調達に関する社内ガイドラインを新たに設けました。このガイドラインでは、違法伐採や乱伐採によってつくられた紙の調達を避けることや、オフィス用紙は古紙配合率100%のものを推奨することなどを謳っています。

廃棄物を減らすために

OLCグループでは、環境への負荷をできるだけ軽減するため、ごみ発生抑制とリサイクルの推進に、積極的に取り組んでいます。またOLCグループでは、廃棄物管理に関する考え方をグループ各社で共有し、グループ内の連携を強化、より環境負荷の少ない廃棄物処理に取り組んでいきます。

水を大切に使うために

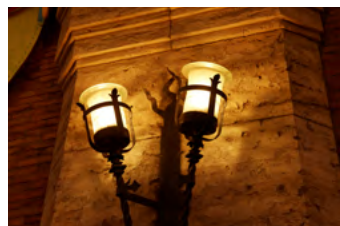
OLCグループでは、自主的に排水の浄化処理を行うとともに、水資源のリサイクルに取り組んできました。また『OLCグループ給排水ガイドライン』を策定し、ガイドラインに沿って給排水を適正に管理・運用するための体制を構築しています。

化学物質を適正に管理するために

OLCグループでは、塗料や洗剤など化学物質を含む資材を、安全データシートに基づき適正に管理するとともに、その代替や削減を検討・実行しています。また『OLCグループ化学物質管理ガイドライン』を制定し、化学物質の適正な管理・運用を推進しています。

東京ディズニーリゾートの地球温暖化防止に貢献する取り組み

テーマパーク内で利用する冷暖房は「セントラル・エネルギー・プラント」で1ヵ所で集中管理し、効率的なエネルギー利用を行っています。このほか使用エネルギー量は「エネルギー・マネジメント・システム」で「見える化」し、施設やアトラクションの照明、装飾に使われている白熱電球のLED化を進めるなどさまざまな施策を行っています。また屋上への太陽光パネルの設置を進め、現在は夜のパレード使用分相当の電力を、自然エネルギーでまかなっています。これらに加え、テーマパークやホテル内の店舗でご提供しているお買い物袋についても、環境への配慮を行い、これまでの石油系ポリエチレンから、サトウキビの搾りかすを材料とするバイオポリエチレンに変更する取り組みを進めています。

セントラルエネルギー・プラントの
中央監視システム社屋の屋上に設置した
太陽光パネルテーマパークの世界観を損なわない、
やわらかい光のLEDをメーカーと共同開発サトウキビの搾りかすを
材料とするバイオマス包材

東京ディズニーリゾートの水を大切に使うための取り組み

東京ディズニーランドや東京ディズニーシーで使用された水は、自社の水処理施設に集めて浄化しています。また、原水のうち約60%は自社設備によってリサイクルし、トイレの洗浄用水として使用しています。水域や水を利用したアトラクションにはろ過装置を設置しており、水の補充は自然蒸発分のみとなっています。

水を循環させ
水質を維持管理

東京ディズニーリゾートの廃棄物を減らすための取り組み

2014年度のリサイクル率は、東京ディズニーリゾート全体で約75%です。中でもテーマパーク内で発生する生ごみについては、ほぼ100%をリサイクルしています。

水分別ができるごみ箱
を設置し、キャストが回収

キャストの手作業による分別

代表的なリサイクル例

PETボトル	▶ 再生シート、繊維、新しいPETボトルへ
びん	▶ ガラス製品へ
段ボール	▶ 段ボールへ
古紙・紙容器	▶ 再生紙、トイレットペーパーへ
生ごみ	▶ バイオガス、肥料、飼料へ
食用油	▶ 塗料、インク、ゴムなどの添加剤へ
植栽ごみ	▶ 肥料、燃料へ
缶・スクラップ	▶ 鉄、アルミ製品へ
プラスチック包材・廃材	▶ 再生プラスチック製品へ
その他可燃物	▶ 固形燃料へ

OLC グループについて

OLCグループは、テーマパーク、複合型商業施設、ホテル、モノレールなど、＜心の活力創造＞事業を展開しています。グループの中核である株式会社オリエンタルランドが、ディズニー・エンタプライゼズ・インクのライセンスを受けて、東京ディズニーランド、東京ディズニーシーの経営、運営を行っています。

■ 株式会社オリエンタルランド 会社概要

本社所在地 〒279-8511 千葉県浦安市舞浜1番地1
設立年月日 1960年7月11日
資本金 632億112万7千円
従業員数 正社員 2,229名 テーマパーク社員 820名 準社員 18,706名
(2015年3月31日現在)

■ お問い合わせ窓口

株式会社オリエンタルランド 広報部 Tel: 047-305-5111